

科学研究費「基盤研究（C）」（研究課題番号19K01571代表者：有江大介）による研究集会

第8回バトラー研究会

18世紀ブリテン思想史と社会的影響力の両面において重要な役割を果たしながらも、今日、忘れられた神学者、思想家と言われているJoseph Butler（1692-1752）を、宗教・倫理・経済の各視点から再検討し、ふさわしい位置に復活させようというのが本研究プロジェクトの中心的課題である。また、共同研究の成果として、論文集の日本語と英語双方による出版を計画している。

日時：2020年10月4日（日）13：00－16：00

方法：Zoom会議により開催（ホスト：松本哲人・北海道教育大学・研究分担者）

・会議名：第8回バトラー研究会

・ミーティングURL、ミーティングID、パスワードは

開催日当日（10月4日：日）午前中にメールにて配布します。

研究会メンバー以外にも公開しますので、

参加希望の方は以下の「参加申込書」に記入して開催日前日（10月3日・土）までに送信してください。

<https://forms.gle/8tAeZEAFV1CkVcvn7>

課題：モスナー『バトラー主教と理性の時代』からバトラー研究の課題を展望する
今回は、日本語翻訳原稿を元に、この本から浮びあがってくる研究課題の整理を行う。

——プログラム——（司会：有江大介）

13:00－13:15 趣旨説明 有江大介（研究代表者）

13:15－14:00 報告：『バトラー主教と理性の時代』概説 大久保正健（研究協力者）

14:00－15:45 コメントとディスカッション

コメンテーター（各章翻訳担当者：大久保正健、松本哲人、菅谷基、木宮正裕、野原慎司、矢嶋直規、吉田修馬、水野俊誠、有江大介）

15:45－16:00 研究会実務連絡（研究会メンバーのみ）

<参考> E.モスナー『バトラー主教と理性の時代』（1936）目次

序文

ジョゼフ・バトラー：伝記的覚書

第1章 理性という最高法廷

第2章 教会批判の弁論

第3章 教会擁護の弁論

第4章 徳の基礎

第5章 理性の衰退

第6章 理性の凋落（D.ヒューム、J.ウェズリーほか）

第7章 バトラーの評判：18世紀

第8章 バトラーの評判：19世紀

第9章 2世紀（1736-1936）の後に